

平成26年度玉城町議会行政視察報告書

- 1 視察日程 平成26年10月1日（水）から10月3日（金）
2 視察先 佐賀県武雄市



- 3 研修の目的 公共施設の民間委託など樋渡市長が立ち上げた様々な政策について学ぶこと。
4 参加議員 風口 尚、山口和宏、北 守、坪井信義、北川雅紀、中瀬信之、奥川直人、山本静一、前川隆夫、川西元行、小林 豊、
5 随行者 辻村修一（町長）、田畑良和（議会事務局長）、宮本尚美（議会事務局係長）
- 6 《視察研修のテーマ》
(1) 図書館の指定管理者制度導入について
(2) スマイル学習（ビデオ予習型授業・武雄市反転授業）について
(3) フェイスブックを活用した情報発信について
(4) 自治体が行うネット通販について
(5) 市民病院の民間移譲について

《武雄市の概要》

佐賀県の西南部に位置し、面積195.44km²、人口50,699人。

市の中心には、開場以来1300年経つ武雄温泉があり、平成18年3月に隣接する山内町、北方町と合併し武雄市となった。

■ 武雄市図書館

「閉館時間が早い」「平日に休館日がある」「子供の声に親が気を使う」何故？市長の疑問から始まった改革である。「もっと多くの方に利用していただきたい」との思いから年中無休、営業時間9時から21時。

平成25年4月1日に全面改装し、CCC（カルチャア・コンビニエンス・クラブ）を指定管理者とした運営が始まった。CCCはTSUTAYAを設置また館内にスターバックスが出店しており、コーヒーを飲みながら図書館の本をゆっく

り楽しめるカフェ席があり図書館と思えない風景であった。

100万人の来館者があり今では市民の憩いの場となっている。

蔵書については20万冊、従業員は60名体制で運営している。

■ スマイル学習

小学校 11校（分校3校） 児童数 2,834名

中学校 5校 生徒数 1,344名

平成26年度より電子黒板を整備し、タブレット端末 (ipad) を利活用した教育を実施している。家庭で翌日行われる授業の動画をみて、知識の習得を行い、翌日学校で教えあい、学びあいを中心とした「反転授業」を導入している。児童の知識の習得の効率を上げるとともに落ちこぼれをつくらない学校づくりに取り組んでいる。

個人の理解度に合わせて予習し、授業ではグループ学習で問題解決を図り、児童がより意欲的に授業に臨めるなど、時代にあった教育の推進であり、ICTを活用した街づくりを進めようとしている当町には参考になる取り組みである。

■ フェイスブック

フェイスブックシティ課を設置し、平成23年8月インターネットの公式ページをフェイスブックに完全移行している。390名の市職員全員がフェイスブックのアカウントを取得し情報発信に努めている。何よりフェイスブックの双方向を十分活かし災害発生時や気象警戒時に道路の冠水や河川の水位などリアルタイムの現場映像配信を行っているのが興味深い。ホームページではできない市民からの刻一刻と変わる災害情報も寄せられ、大変充実している。

■ ネット販売

自治体運営型通信販売サービスで地域の良いものを掘起し、フェイスブックから全国に向けて発信、地域所得の向上をめざしている。更に、現在では、カタログ販売や全国21自治体と協力して、販売ホームページを運営するなど取り組みが進んでいる。

■ 市民病院

武雄市民病院は平成12年2月に総合病院として開設されたが、6億円を超える累積赤字解消と医師不足への対応のため、平成20年1月に民間移譲を決定した。

町立玉城病院とは、当然ながら規模の違いから比較は難しいが、公立病院運営という共通点、医師不足問題でも参考となった。移譲先法人の公募にあっては公開市民説明会を実施するなど行政としては消極的になりがちな部分を樋渡市長の決断で実施したと思われる。地元医師会との対立、市の保健医療事業への協力関係の悪化など大変困難な状況のなか改革が推進され、現在の新武雄病院となった。入院患者数3倍、救急受入数1.4倍、手術件数1.7倍、患者数3倍とそれぞれ増加し、民営化により職員数は4.8倍増加している。評価委員会を設置し、市民の意

見も反映するなど民営化の効果が最大限に見られた。



〔所見〕

今、全国の各地で見られる少子高齢化や都市部への人口の流出により地元自治体の体力が弱り、その結果、今まで運営していた施設の閉鎖や指定管理者への移行など多くの事例が各地で見られるようになってきている。

武雄市は「スピードは最大の付加価値」という市長の行動の早さで、図書館の指定管理者制度の導入や、市民病院の民営化など全国的にも稀な成功例といえる。

わが町の町立玉城病院においても、医師不足や看護師不足など医療環境の課題は多くあり、今後の在り方を検討すべき時期にきているのではないかと思う。

また、学校へのタブレット教育の環境づくりなど、今後、教育現場に限らず議会においてもタブレット端末の活用は、近々の検討事項ではないかと考える。

自治体が行うネット通販については、当町も現在進めているブランド化推進に大いに参考になる戦略と考える。

やはり「玉城町の産業を潤わせる」ということが最も大切である。

更に、武雄市のフェイスブックに見た行政と住民との双方向のやり取りをいかにして取組んでいくか。

リアルタイムの災害情報をホームページ上で対応できないか。

ホームページ、広報誌など「見たい、読みたい、アクセスしたい」という興味、関心がわく紙面、ページづくりが重要と考える。

樋渡市長の市政の取り組みは、他に類を見ないユニークかつ、奇抜な発想が多く、本人自ら行政で一番大切なものは、旧来より行政に欠けている『スピード感』であると発言されている。この取り組み姿勢が武雄市の行政改革の推進となっている。

